

平成25年【第4回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3ヶ月に1回)実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

被災した12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成25年11月(次回調査は平成26年2月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近3ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 82.4%(126名/153名) <前回 77.1%(平成25年8月)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	84	66.7%
女性	42	33.3%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	42	33.3%
沿岸南部	84	66.7%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	26	20.6%
40歳代	36	28.6%
50歳代	43	34.1%
60歳以上	21	16.7%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	66	52.4%
被害なし	53	42.1%
不明	7	5.5%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)
49名(38.9%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)
37名(29.4%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者)
40名(31.7%)

■参考■

- 「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町
沿岸南部とは、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市です。

※ この調査は、調査結果の集計、分析について、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が4.8%と前回(7.0%)を2.2ポイント下回ったが、「回復した」「やや回復した」の合計は48.0%と前回(42.7%)を5.3ポイント上回った。

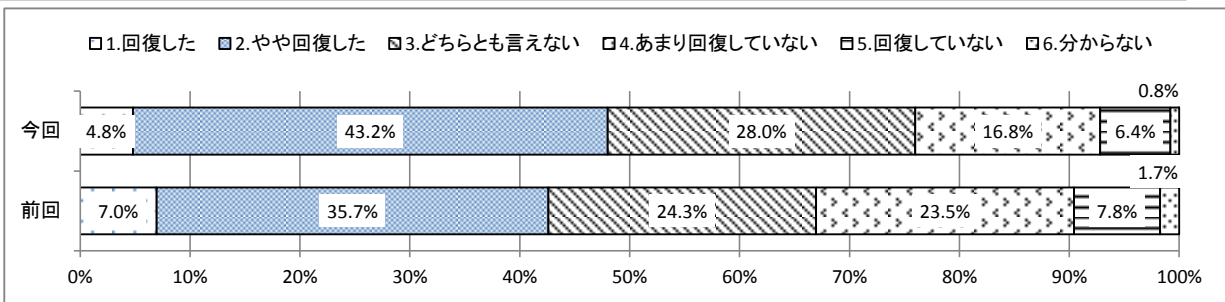
○地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった(沿岸北部45.2%、沿岸南部42.2%)。沿岸北部では「回復した」「やや回復した」の合計が54.7%と前回(60.0%)を5.3ポイント下回ったが、沿岸南部の「回復した」「やや回復した」の合計は、44.6%と前回(35.0%)を9.6ポイント上回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「やや進んでいる」の割合が37.1%と最も高く、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が44.4%と前回(42.1%)を2.3ポイント上回った。

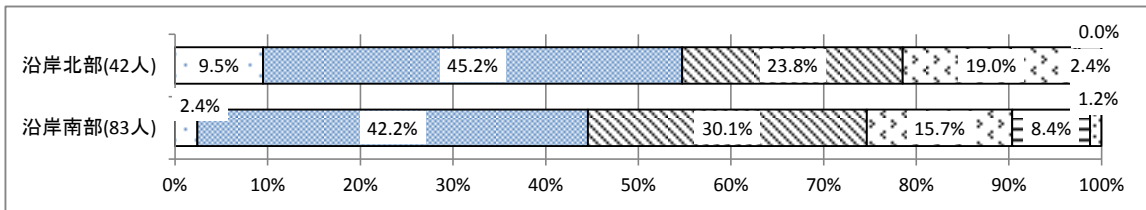
被災者のみなさんに心の余裕ができた、応急仮設住宅から出る方が増えた、といった前向きな声がある一方、復興工事の遅延・中断や、復興推進に向けた前向きな気持の低下などを懸念する声もあった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

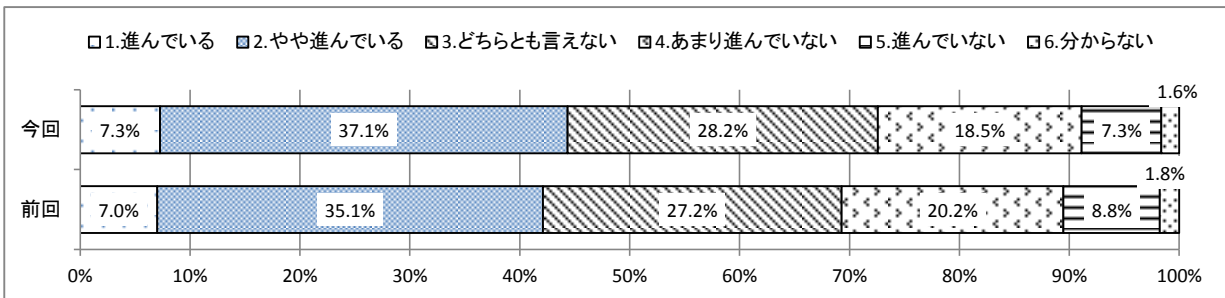


地域別

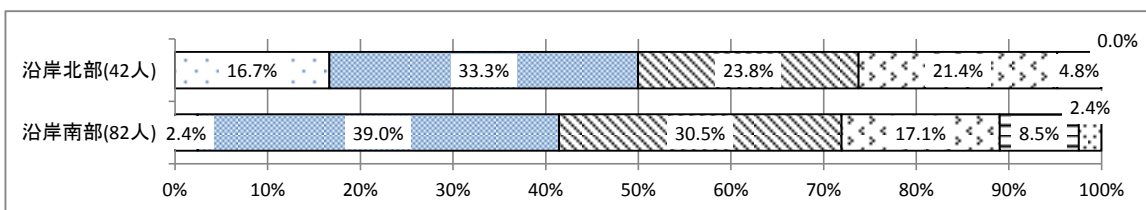


② 直近3ヶ月間(概ね9月から11月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<p>◆生活に不憫さを感じることは少なく、心に余裕を感じる部分も見えています。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<p>◆職種や雇用形態を見て仕事を選ぶ余裕があるように感じる。被災直後のように何であれ働きたいという差し迫った求職者が見られなくなった。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆市内にはダンプトラックが300台位入っているの、高台移転の造成工事やガレキ処理のため車等の往来が多いため、復興が感じられるが、被災者の住宅の確保まだ進んでおらず、不安を感じている。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆自宅を新築して、仮設住宅から引っ越す人が増えています。金銭的には大変かもしれませんが、安心して生活できているのではないかと思います。(30歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆町営住宅に入居されたり、自宅再建された家が多数建築されてきました。徐々にではあるが、生活は回復されていると思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆毎日の生活は個々に迷惑かけないよう成り立っていると思う。少し心にも余裕が出来ているようだ。お琴、押し花等習い事にも出かけ、だんだん本気になって新品を買って喜んでいきます。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆雇用についても臨時的なものも多く将来設計をなかなか立てることができない人が多い。事業主側にしても、現在の復興特需が、東京オリンピック関連に流れた場合を考え、正規雇用の増加に二の足を踏む状況にある。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆仮設住宅では力のある人がどんどん出て行って、いわゆる弱者が残ってきている状況です。自治会活動も難しい状態です。災害復興住宅でも同じことが繰り返されるのではないかと心配です。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆被災したみなさんの顔の表情がやわらかくなってきたと感じる。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆被災前のように日常生活を送ることができるようになったが、将来の見通しが持てない大人が多く、不安な気持ちでいるようだ。それが弱者である子ども達に影響を及ぼし、児童の中に心が不安定な人が多い。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆震災の話あまり話さなくなったが、家のことを話す人も少なくなった気がする。落ち着いているように見えるが、代替地や公営住宅が出来るまで待つしかないというあきらめのような気持ちを感じるときもある。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆子供にももちろん必要だが、大人にも心のケア、サポートが急務と感じる。前向きに進もうというエネルギーが全体として減ってきたようにも感じるから。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆集団移転先1ヶ所は完成し住民も移り住んでいる。別の小規模造成地も基礎工事開始となり回復傾向にあるが、一方で大規模造成地は工事が一時中断し、回復の上げ潮ムードに水をさす事になった。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆ここ最近ではニュースなどでも、被災者のことはあまり取り上げられなくなってきた。なんとなく自分の身近では回復した様子は見えないように感じる。(20歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆ごく一部、個人の住宅建設工事が始まってはいるが、途中で中断したり、スムーズに進んでいない事をよく聞く。地元の本採用が少なく不本意にも地元を離れざるをえない人もいる。雇用が一部業種に限られている。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆高台移転地の工事がストップしてしまい、また足踏み状態に戻った気がします。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆大工さんの数が足りず、大きい施設等の建設が優先されていることがあり、住宅建設にかなりの時間がかかっている。災害住宅が不便な土地に建てられているため、お年寄りがいる家庭では、希望しにくい。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 急急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が48.8%と前回(44.4%)を4.4ポイント上回った。

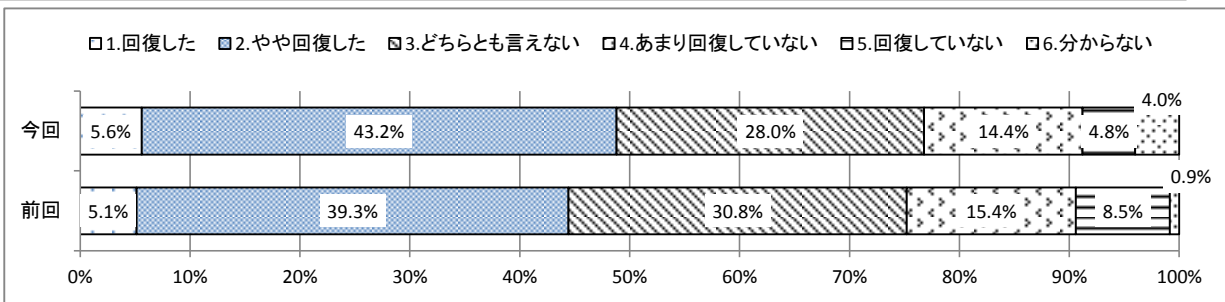
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計が、沿岸北部では47.6%と前回(51.5%)を3.9ポイント下回ったが、沿岸南部では49.4%と前回(41.5%)を7.9ポイント上回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が37.9%と前回(39.4%)を1.5ポイント下回った。

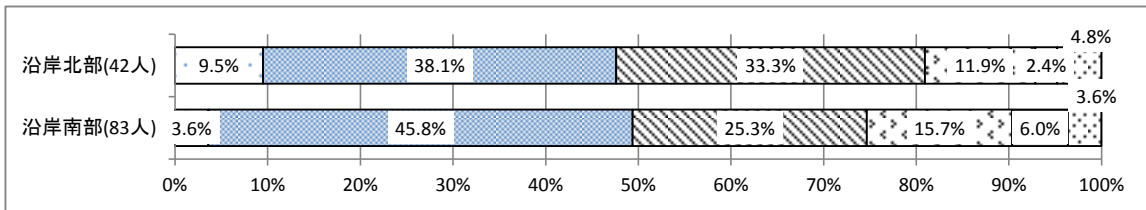
大型店進出による雇用拡大への期待や水産業の好況を前向きに評価する声がある一方、土地区画整理等による仮設店舗の移転や大型店出店による打撃を懸念する声もあった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

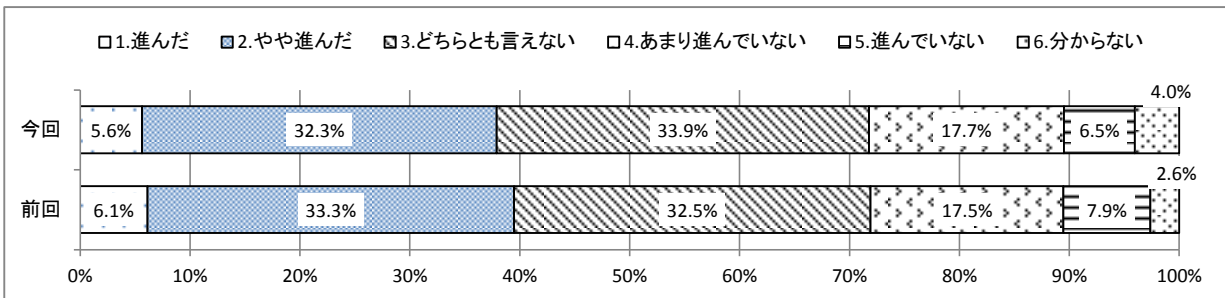


地域別

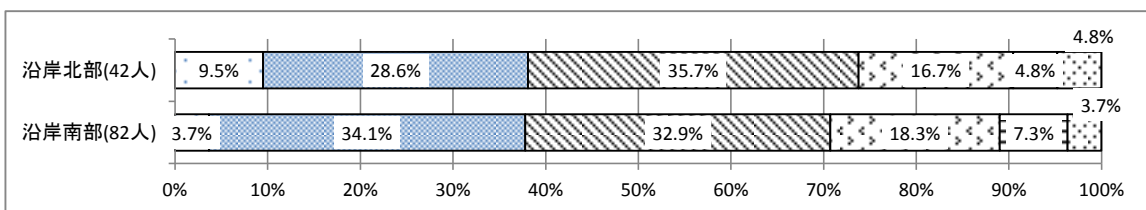


② 直近3ヶ月間(概ね9月から11月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	◆水産業、様々なご支援を受け、船も100%でき、ウニ、アワビ漁も今年度は浜の方でも大分活気づいて女性部の皆様に元気がでて来ました。(60歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性)
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	◆やる気のある方々は、殆ど事業を再開しているのではないかと思います。問題は、仮設店舗での営業活動は再開したが、その後のことになると、事業資金の借り入れ弁済のことなど、不安を持っているようです。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆大型スーパーなどが次々とオープンし、また近くに大型店が出来るとか、うわさを耳にする。ただ、仮設の衣料店などでは、品揃えなどもさびしく客が近隣の大型店に取られ売り上げもままならない。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性) ◆港の整備は進んでいるが捗(はかど)らない。津波前から使っていない被災した農地の整備が進んでいるが、何に使うのかな?(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性) ◆ホテル・旅館も再開し、人の流れが目立つようになった。仮設商店街も皆んなで協力し、集客に努めている。漁業関係も浜に活気が出ている様に思われる。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆1年前から噂のあった大型スーパーがようやく着工し、少しずつでも街が明るくなると思います。一番に働く場所がないと人口も減ってくるのでもっと大きな企業がきて、盛んな街になってほしいです。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性) ◆夏が過ぎてから、大型店舗やホテルなど人が集まる商業施設の工事が進んでいるように見える！更には今までプレハブで商売をしていた人達が望んでいた場所で再び同じ商売ができていて、活気づいてきている！(20歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)
「3.どちらとも言えない」 の理由	◆担当する企業の多くから言われることとして、「求人を出しても、人が来ない」ということ。求職者の約2倍の求人数であることから、労働力不足になるくらい、企業活動が活発化しているように思う。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆わかめ、ホタテガイの浅海養殖業が復旧復興され、カキ養殖も来年度は本格的生産が予定されている。悲願の魚市場復興で明るい兆しが見えてきた。しかし、漁業後継者が極端に激減している。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆全漁業者に磯漁に使う小舟が行き渡り、ウニ、アワビ漁に出漁し浜にも少し元気が戻った。被災地海岸部より内陸部での生活者が多くなり、目の届かなくなった海は密漁者に荒らされ、漁業者は本当に大変だ。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆再建や新たに参入して来た企業がある一方、嵩上げ工事などでまた移転しなければならない仮設店舗などは、移転費用や、移転場所などの不安がある。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆鮭ふ化場も6月中旬に完成し、今年から採卵作業も再開予定となり来年には4年ぶりに稚魚の放流が可能となる事から漁業関係者には将来に向け明るい兆しが増えた。一方で、鮎等の密漁が報道になる度に胸が痛む。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性) ◆仮設店舗の期限が近づいており、グループ補助金も利用しての本設への移行が始まっているが、補助金の使い勝手の悪さもあり、内情はかなり厳しいものと思われる。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	◆住宅は高台に求めながら店舗等は旧市街地の嵩上げ地を希望している事業主は、店舗等の本設場所確保が困難になっている。浸水区域内で事業再開した事業主は、土地区画整理事業によって建物の解体を迫られている。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆大規模な量販店が来店してきて、仮設店舗の経営が大変らしい。地域密着の町づくりをしてほしい。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆地域経済をけん引する産業に乏しいせいか、言われるほど改善しているとは思えない。復興により生活向上がみられる地域への流出が顕著になってきた感じがする。そのせいか家族介護が難しく施設への入所希望者が増加している。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	◆私共の仮設長屋店舗は、皆さんと和やかに仕事をしています。ずうっとこのままでも良いねと、話が出る位です。この場所は、嵩上げを必要とするところで、別の場所に移動しますが、その都度、内装設備に資金を掛けなければならない、それが悩みです。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
産業・経済・雇用関連：漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりについては、「達成した」「やや達成した」の合計が13.7%と前回(15.6%)を1.9ポイント下回ったが、「達成していない」「あまり達成していない」の合計は48.4%と前回(54.0%)を5.6ポイント下回り、調査開始(平成24年2月)以来、初めて半数以下となっている。

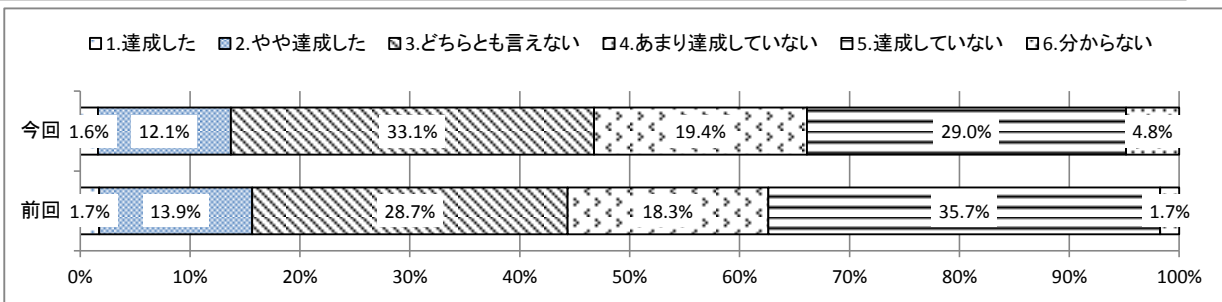
○地域別では、沿岸北部は「どちらとも言えない」が34.1%(前回は42.9%)と最も高く、沿岸南部は「達成していない」が37.3%(前回は46.3%)が最も高くなっている。

○直近3ヶ月の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が29.0%と前回(24.6%)を4.4ポイント上回り、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は42.2%と前回(48.2%)を6.0ポイント下回った。

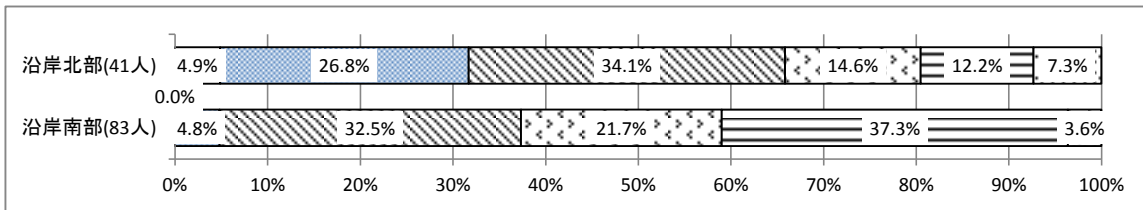
防潮堤等の復興工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、防潮堤等の早期復旧・整備を望む声も多く、安全なまちづくりに関する意見を訴える声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

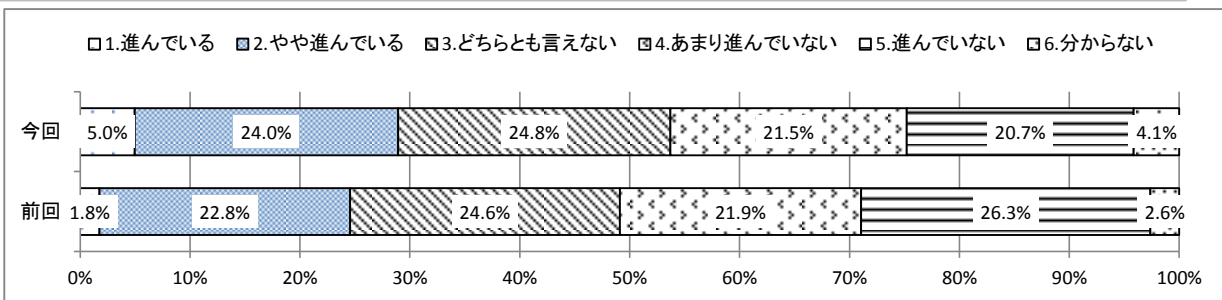


地域別

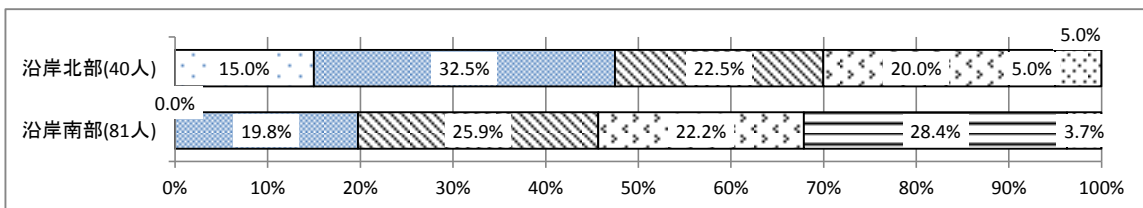


② 直近3ヶ月間(概ね9月から11月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	◆従前より防潮堤が整備されており、実際に被害を防いでいる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)
「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	◆有効求人倍率は高く、各商業施設や住宅の建設ラッシュにより、地域経済は確実に回復、大型の建設プロジェクト計画も具体化しつつある。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆復興工事は進んでおり、光ファイバーを利用した防災ネットも工事が始まっている。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性) ◆防潮堤のだいたいの形が出来ていると思われる。復興道路の早期完成に期待している。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)
「3.どちらとも言えない」 の理由	◆浸水地域は、未だ道路(含歩道)の歪みや亀裂等が所々に有る。また側溝の排水不安で、雨が降るとすぐに道路が冠水し、生活に困っている。港湾に関しては防潮堤等の工事が目に付き、進んでいる様子が分かる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆防災公園づくりが始まり、また、防潮堤工事も進んでいるところを見るにつけ、着実にまちづくりは進んでいると感じる。しかし、台風27号通過に関わる大雨により中心部で、浸水寸前までになってしまった。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性) ◆主要道以外は舗装が継ぎ接ぎだったり、まったく手付かずだったりして、運転中にいまだに「アッ!!」と思う時も多くあります。復興のスピードというのは、都市部で同規模の震災があっても同じでしょうか？(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆防潮堤の建設が進み、整備はされてきていると思う。避難訓練もよく聞くが地域での訓練のため、仕事をしていれば参加はできない。会社等に年に一度避難訓練の実施を促すなどした方がよいと思う。(20歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆防波堤は日々高さや長さを増してきていると実感する。隣村ではバイパス道路が完成し、交通の便が非常に良くなった一方、商店街や中心地は交通量が激減し、村全体が今後、活気が無くなるのではと不安です。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)
「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	◆10月だっただろうか、津波注意報が出された時がある。当地域は公民館が3、11で被災し、なくなってしまった。そのため、避難場所となる建物がなく、近くの高台に避難し、屋外で過ごすことになる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆防潮堤は手つかずの状態。工事の進み具合は予算を使っている割に遅い。台風により仮設市場も被害にあう始末では漁村もなかなか元気が出てこない。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆たくさんの重機で景色が変わってきている。しかし、防潮堤の高さに関しては反対意見があったり、盛土工事がなかなか進まない。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性) ◆9月に予定されていた村の総合防災訓練もなくなり、安全なまちづくりをしているとは言えなくなりました。災害はいつやってくるかわからないので、早く安心・安全なまちづくりができることを強く願います。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)
「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	◆震災当初時は被災者はまちづくり等の相談されても、自身の身の上の心配で考える余裕がなく、ここ2年7ヶ月過ぎて、心身とも考える余裕できて、市の復興計画について意見が多く出されるようになってきている。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆当市の防潮堤高について、説明と設置場も不明です。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆交通量が増えているが、街灯がなく暗いため危険。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆防潮堤もようやく手がついたところですし、まちづくりも、まだ土地のかさ上げがはじまったところがある、という程度なので、達成と言うにはまだ遠いという感じがします。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性) ◆防潮堤の問題についてだけでも右往左往している。行政には期待できないと思う。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
産業・経済・雇用関連：漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

平成25年【第4回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告
(平成25年12月)

発行

平成25年12月25日
岩手県 復興局 総務企画課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：いわて復興ネット

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=39696&ik=0&pnp=14>